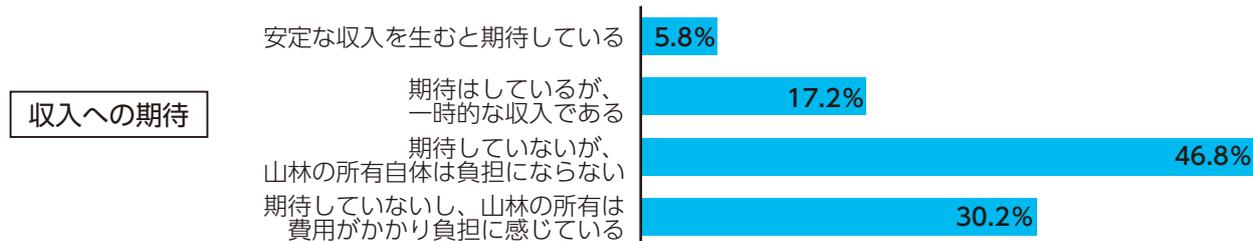


れてしまっているようです。

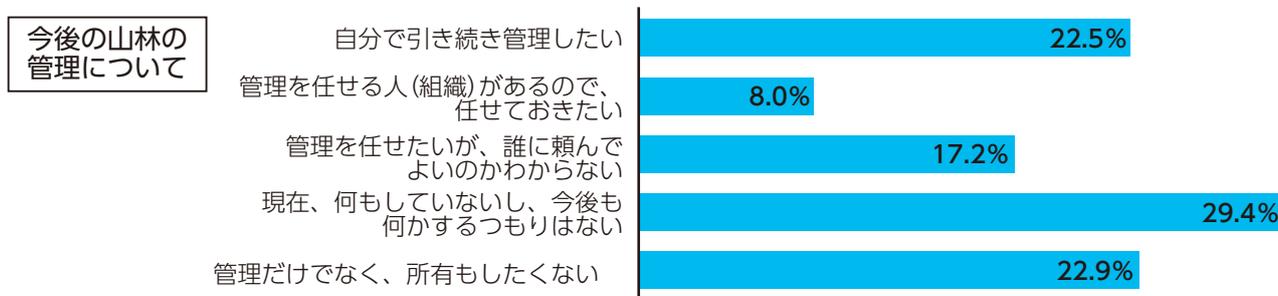


Q5. あなたが管理している山林の、今後の管理、所有について教えてください

①管理について

グラフに示すとおり、「現在、何もしていないし、今後も何かするつもりはない」という放任状態との回答が29.4%、「管理だけでなく、所有もしたくない」という放棄状態が22.9%、この放任と放棄を合わせると半数超の52.3%に達します。

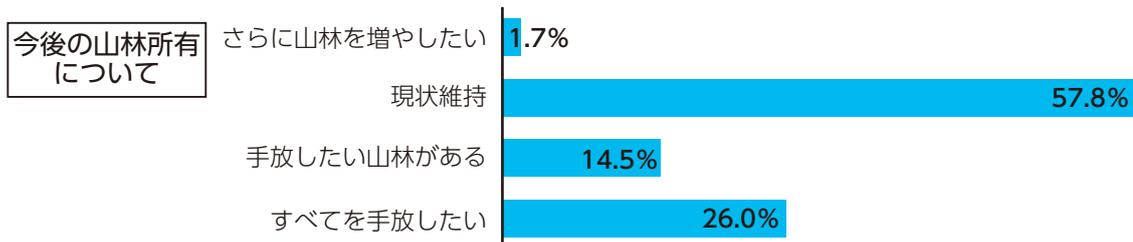
「管理を任せたいが、誰に頼んでよいのかわからない」の回答が17.2%ありますが、森林経営管理制度の進展によって市町村に管理を委ねることにより、この数字は改善の道が開けそうです。



②所有について

グラフに示すとおり、積極的に山林面積を増やそうという組合員は1.7%に過ぎず、57.8%の組合員は現状維持ですが、「手放したい山林がある」と「すべてを手放したい」を合わせると40%を超えます。

次問の森林組合に望むことでは、手放したいという組合員の考えを反映し、「山林の売買の仲介」を望む声が多くなっています。



Q6. あなたが森林組合に望むことはどのようなことですか？

グラフに示すとおり、「所有山林の整備」、「所有山林の管理」が最多となったのは想定内のことです。これに次ぐのが「山林の売買の仲介」で、これは予想外の驚きでもありました。

また、「望むことはない」と100人が回答しています。これには、「組合の活動や事業に十分満足している」、そして、「組合なんかに望んでも仕方がない」という諦めと捉えることができますが、後者が大半だと思います。

さらに、自由記述の中には「森林組合の存在意義が不明」との記述が散見されます。

本組合ではこの結果をしっかりと受け止め、森林整備だけでなく組合員所有林の経営